

# 島原・天草紀行

個人会員 福富 廉

この時期の夜のイルミネーションが凄いらしいのでハウステンボスに行きたいという家人に付き合っって長崎市観光を加えた旅行計画を立てていたが、長崎市には何度か行っているの、それは止めて島原・天草方面に回ることにした。いつものように結果的に船も堪能したのだが、特に島原半島南端の口之津港の歴史と現状に非常に興味を持てたので、その紹介を中心にレポートしてみたい。

## 1. 島原

ハウステンボスに行った後、諫早から島原鉄道に乗車した。天気が良くて素晴らしい景色で、途中、多比良駅の近くでは、熊本の長洲港に向かって出港する有明フェリーのフェリーと対岸のJMU有明事業所の巨大クレーンがはっきり見えていたが、ここはかなり昔に乗ったことがあるので車窓だけとしていた。

終点は島原港駅、以前は島原外港駅とも言っていたようだが、歩いて数分で島原のフェリーターミナルへ行き、「フェリーくまもと」と「オーシャンアロー」の入港を撮影した。また、ターミナルの裏の島原ドックには九州郵船のファンネルマークとブリッジが見え、どうやら「フェリーちくし」が入渠していたようだった。



フェリーくまもと



オーシャンアロー



やまさ海運 島原～三池航路「みいけ丸」



やまさ海運 島原～三池航路「しまばら丸」

## 2. 口之津港

島原半島から対岸の天草へ渡る島鉄フェリーに乗るために南端の口之津港に到着した。地図上で入り込んだ湾内にある良港なのだろうとは見ていたが、イルカウォッチングが有名ということで、まずこちらに参加した。多客期には最大 72 名の大型船もあるが、行った回は我々2人だけだったので、15人乗りのオープントップの漁船に乗船した。この付近に棲息している群れがあるそうで、遭遇率 99%とのこと、しっかり見られて大変満足した。イルカの周りには、熊本や天草方面からも来た同様の船が数隻、中には、休航中の定期船の姿も見られた。



イルカウォッチング



定期航路にも従事するシークルーズの「セレナ」



口之津観光船企業組合「第二五宝丸」(72人乗り)

その後、後々のスケジュールに余裕があったため、直近の船には乗らずに直前のイルカウォッチングの船から見えた湾口の歴史民俗資料館に行ってみることにしたが、これが非常にいい結果で、色々な勉強をすることができた。

まず、口之津港の歴史を見てみると、以下の通り。

- ① 長崎開港より8年早い1962年に貿易港として開港、その5年後にはポルトガル船3隻が来航して、**南蛮貿易の拠点**として発展した。
- ② 明治時代、三池港からの石炭搬出が盛んになり、水深が浅い同港から団平船と呼ばれる舢舨を使って口之津港でその石炭を大型船に**積替える中継港**として発展したが、その後の三池港の整備によって衰退した。
- ③ 前記の港の発展と共に優秀な船員を輩出してきたが、戦後、海運業界の好景気に伴って船員需要がさらに大きくなり、「**日本の船員の町**」を標榜している。港内に、1954年に開設した国立の口之津海上技術学校(昔は海員学校)が存在する。



口之津海上技術学校(背景)の練習船「口洋丸」

- ④ さらに、**商船三井**（元、大阪商船三井船舶、正確には、元の三井船舶）の源流の一つ、それから、レーダー等の航海電子機器で有名な**古野電気**の発祥の地、ということである。

さて、口之津歴史民俗資料館（現在は分館と呼ばれている、後述）は、海の資料館と与論館（明治時代に与論島の人々が移住して石炭積み出し労務に従事した歴史を語る施設）を併せた施設であり、明治 32 年（1899 年）に建築された旧長崎税関口之津支署庁舎を払請したものである。特に、海の資料館は、昔の三井船舶の成り立ちや歴史、天草航路の船、古野電気等々に関する資料が数多く展示されており、非常に興味深かった。



口之津歴史民俗資料館・分館（海上から）

右の赤い橋は、その下にある古く由緒がありそのような漁港の入口をまたいでいる。



口之津歴史民俗資料館・分館（陸側から正門を見る）



「肥前口之津－大阪商船三井船舶の源流の一つはここに始まった」と記された施設内の碑



「三井と口之津」の関係や歴史、「天草の船々」等を説明した写真や模型が多数展示されていた

口之津港のフェリーターミナルは今年 2020 年 3 月に、島原港以南が廃線になるまでのフェリーへの乗換駅、口之津駅だった場所から数百 m 南の新ターミナルに移動した。ここの 2 階が口之津歴史民俗資料館となっていて、今はこちらをメインにしているようだ。入場料大人 200 円は先に述べた分館と共通券となっている。展示自体は分館と重複する形とはなっているが、同じものは無く、明るく見やすいのが特徴である。



口之津港フェリーターミナル（出船で出港）



ターミナル2階の口之津歴史民族資料館内部

口之津港から早崎瀬戸（大島瀬戸／伊良子水道と合わせて日本3大潮流、鳴門／来島／関門は日本3大急潮流とか）を渡って天草上島北端の鬼池港に渡る島鉄フェリーの航路は所要30分、1時間毎の同時刻に両港を出港する「フェリーくちのつ」（548GT、1993年建造）と「フェリーあまくさII」（620GT、2015年建造）の2隻が就航しており、今回は新しい後者に乗船できた。

対岸の鬼池港は小さな港で、ターミナルの前に天草四郎の銅像がある以外は、いわゆる通り道に過ぎない。我々はホテルの送迎車にここまで迎えに来てもらえたが、この冬の時期、船のダイヤが15分変更になっているにもかかわらず、中心地・本渡へ行くバスの時刻表が前と変わらないので、フェリーの入港5分前に発車してしまう。よくあることだが、徒歩客にはつらい。



口之津港を出港する「フェリーくちのつ」



口之津港に入港する「フェリーあまくさII」



早崎瀬戸の中央で反航した「フェリーくちのつ」



鬼池港（左側から中央の赤い可動橋に入船着岸）

### 3. 天草

天草では潜伏キリシタンの世界遺産、崎津教会・集落を見学した後、帰路は天草から熊本へ向かうことにしたが、天草パールライン付近のシークルーズ、天草宝島ラインはこの時期休航中で、バスで天草五橋を通るだけでは面白くも無く、調べた結果、天草の中心、本渡から御所浦島を経由して九州本土の三角まで行くことができることがわかったので利用した。三角からは観光列車も走っていて好都合だった。

1 番目は本渡から御所浦島までの共同フェリーの高速艇「しいがる3」、1977年三保造船建造なので、相当古い船である。始めのしばらくの間は、現在は幅50mまで拡張されたに天草上島と天草下島の間の本渡瀬戸を通り、抜けたら、瀬戸内海のような多島海を通過して風光明媚である。本渡瀬戸には自動車橋の他、船の通過時に上下する歩行者と自転車のための本渡瀬戸歩道橋があって珍しかった。御所浦島は恐竜の島として宣伝しており、白亜紀資料館がある他、所々で化石を見つけることができるということであった。

2 番目は両頭フェリーの「フェリーごしょうら」(132GT、2001年臼杵市の下ノ江造船建造)に乗船。御所浦島と天草上島の棚底港との間で朝夕各2往復、やはり天草上島の大道港の間に日中1往復の計5便の設定がある。どの便も途中、横浦島の与一ヶ浦港に寄港する。上陸したのは大道港、ここには、2007年頃までは水俣方面へ渡る不知火海横断フェリーがあったようだが、可動橋の残骸と看板だけが寂しく残っていた。

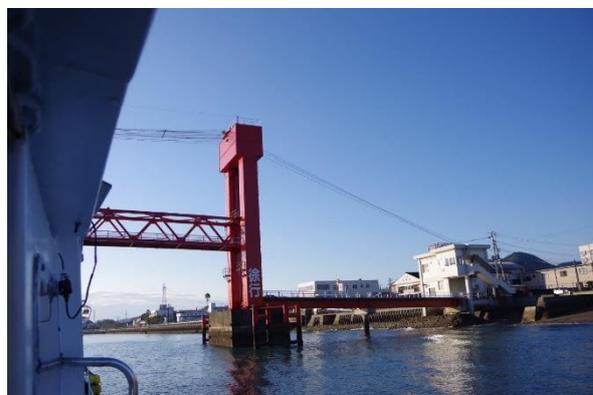
大道港から岬を周る道を少し歩いた小屋河内港から三角に行く高速艇「八りゅう丸」に乗船した。出港してすぐに樋島にかかる樋島大橋の下をくぐり、天草上島の東岸を少し単調に直進した後、最後に天草五橋のある大矢野島と維和島／戸馳島間の風光明媚な狭水路を進んで三角に到着した。近くに世界遺産の三角西港があるが、観光列車に乗るために、行く時間が無かったのが残念である。



三角港手前、東大維橋の下を通過した直後の景色



本渡港に入港する「しいがる3」  
元、山陽商船「第十はやぶさ」らしい。  
関門汽船を經由して現状へ。



本渡瀬戸可動橋（昇降する）を通過



「しいがる3」(御所浦島嵐口港にて)



「栄久丸」(旧船で係船中? 御所浦港にて)



「フェリーごしょうら」(御所浦港にて)



(同左) 元、天草フェリーライン「シーガル」とのこと



貨物フェリー「第五睦丸」(御所浦港近くにて)



「ホワイトドルフィン」

元、三原観光汽船の「第十西日光」からいくつか  
経由して現状、通学船(横浦島与一ヶ浦港にて)



不知火海横断フェリーの遺構(左)と  
「フェリーごしょうら」(大道港にて)



「スーパーイーグル」(横浦島付近にて)  
元、松島観光汽船「あづま丸」とのこと



「八りゅう丸」(小屋河内港にて)  
元、愛媛汽船「みしま3号」とのこと



「八りゅう丸」(三角港にて)

#### 4. ハウステンボスの船々

ご存知の通り、ハウステンボスはオランダの街並みを再現したテーマパークで、運河巡りの船等が多数走っている。他のテーマパークと違うのは、全てが船検／船籍を持った正規の船であるということ。今回、湾内クルーズのようなものは中止となっていたが、中には、大村湾内を片道40分かけて行く無人島（ジュラシックアイランド、実は長島）ツアーがあり、本来はゲームが主目的のアトラクションなのだが、西海橋や針尾の無線塔等を見ながらの航海は楽しかった。

なお、ハウステンボスへのアクセスには、長崎空港との間の安田産業汽船の船便もあるのだが、他の交通機関に比べて所要時間はそう変わらないのに料金が高く、ホテルの無料送迎バスもあるため、今回は利用しなかった。



「デ ハール」



「ONE PIECE サウザンド・サニー号」



運河巡りの遊覧船「イルペンダム」(13GT)



「モササウルス」



「あかしあ」(長島にて) 無人島ツアーの船  
2007年ニュージャパンマリン(伊勢市)建造



西海橋(左)と針尾の無線塔



「みいけ」(?)

安田産業汽船の船だと思われるが、舷側に(島原⇄大牟田)の表記があり、立入禁止区域に泊っていたので確認できなかったが、「みいけ■」と(丸)が隠されているようにも見えた。

【日本の旅客船I】では、「みいけ丸」(元、「島鉄2号」)となっているが、現状の島原～三池航路の「みいけ丸」は、P.1の通りである。